

千葉県台風災害・埼玉 RB・第一回災害支援活動レポート

2019年9月18・19日千葉県君津市災害ボランティアセンターにて大森、篠原の2名で災害支援活動に参加いたしました。

大森は梯子・脚立・工具に加えブルーシート・養生テープ・防水テープ・コーキング・土嚢袋、食料、水を準備してトラックにて向かい、篠原は宿泊、基地局としてハイエースバスにてバイク積載し大森と高速幕張PAにて途中合流して2台でボラセンに午前8時頃到着しました。9時より受付いたしました。平日と雨でセンターには地元のボランティアが20名ほどだけで、非常に少なく静かな様子でした。受付にて屋根補修等雨天中止と出されましたので依頼者宅に下見と情報収集をやらせてもらえるよう交渉しまして8件の依頼書を預かりトラック1台にて出動いたしました。現場は町から30分ほど離れた山の中、旅名・奥米・宿原・平田・東栗・大井戸のお宅へ訪問。

1. 件目は板金瓦屋根が飛んでしまって元の藁葺屋根になり雨漏れしているお宅ですが応急のシートは張られていましたこのお宅では脱穀機を動かしたい発電機の要請でしたが貸し出す発電機は無いことを伝えまた田んぼわきの土砂崩れ倒木を下見し報告することをお伝えしました。水、電気は未復旧の状態でした。

2. 件目留守でした。

3. 件目は別棟の倒壊した建物の撤去処分でしたがこれも片づけは近隣の方たちが、かたづけしてはいましたが処分してほしいとのことですがこれは早急性がないのでまた改めて行政と話し合いをしていただきたいとお伝えしました。また引き込み電線が破損早急に対応できるよう報告。母子家庭で息子さんは養護施設に行っており車もなく買い出しも行けずやはり近隣の方たちに支えてもらいながらの生活をしております。水も電気も電話も車も何もない状況の中大変不住しております。ボラセンには娘さんが依頼したようです。この後、自衛隊給水車の駐屯している駐車場にて昼食(カップ麺・乾パン・缶詰)

4. 件目は倒木による支度小屋倒壊とドアでしたが留守でした。

5. 件目は近隣のかたの家で新規の依頼をいただき雨漏りの補修を受けました。お年寄り2人暮らしで奥さんが脳梗塞で寝ておりこちらも電気、水が使えませんので不住しておりましたがなすすべなく話を聞いてあげるだけしか抱きませんでした。

6. 件目はIFのテラス撤去処分でしたが波板は飛んでついていませんでしたが緊急性、生活の支障、危険度がほぼないので、これは後日、息子さんがおられるので、ご自分でできるなら撤去してくださいと話しました。

全部は回り切れず時間となりましたので合計6件の調査を終了してボラセンに戻りました。センターにて写真プリント、報告取りまとめて終了となりました。センターに君津市長の石井ひろ子様が社協の突然、激励訪問され埼玉RB紹介していただき握手させていただきました。この後市内のきみつの湯にて風呂に入り、食事を済ませ市役所近く

の公園にてハイエースに車中にて就寝し1日目の活動は終了。

2日目は晴天。午前8時のボラセン到着9時より受付、3件の依頼を受け入間市より来られた屋根工事の方と3名で依頼現場に向かいました

1件目は西猪原の倒木撤去依頼で訪問。敷地内に大きな杉の木が倒れておりました。緊急性はありませんでしたが枝の撤去と移動だけですが午前中やらせていただきました。その他畑の土砂崩れがありましたが、また後日として終了しました。不住な中わざわざお弁当とお茶を買い出しに行ってくださいりいただいて帰りました。

昼食は近くの清和公民館にて立ち寄りました。こちらには報道にもありました自衛隊によるお風呂が設置。神奈川県より移動式トイレ設置、発電車両の設置が行われておりました。女性自衛官とお話ししましたが、彼女はお風呂専門の救援活動をしていて、東日本大震災から始まりすべての被災地を訪れておりました。一か月休みなしで交代が来て一週間休めるが、精神的にも肉体的にもキツイと話していました。仕事とはいえ直接被災者と接することもあって精神的には過酷極まりない活動だと改めて感じました。

2件目は東栗倉の屋根補修現場で訪問。離れの支度小屋2Fの瓦が飛んでいました。部屋和水浸しだそうです。壁も窓も損壊したいましたが壁は親せきの方にシートでふさいでもらっていましたが、屋根は無理なので依頼したとのこと。早速梯子にて1F屋根に乗り脚立で2F屋根に上り作業開始、瓦をかたづけ、ブルーシートを張り土嚢袋に土とガラを入れロープでつなぎシートを抑える作業となりました。残念ながら時間制限もあり半分で終了(翌日、同行された増田さんが、翌日完了させていただきました)こちらのお宅も水、電気は復旧しておらず水を提供して帰りました。2件回りボラセンに戻り2日目の作業終了し報告完了後、帰路に向かいました。以上が今回の活動内容です。

今回の活動は前回同様篠原さんと二名による行動で良い連携活動ができたと思います。高速の無料措置も簡素化されスムーズでしたが帰路は平日の渋滞に巻き込まれ4時間もかかりました。ボランティア活動での移動距離は手段はやはりしんどいものでした。

作業自体も情報収集も入間市に訓練が生かされました。屋根の補修は日ごろの仕事が役に立ち、被災地には建築業者は、即戦力だと痛感しました。

被災地の現状は停電、断水、損壊とひどいものでメディアの数字では計り知れない状況です。町は平時の装いでしたが、被災した山間部では生活できない状況に追い込まれて切迫しております。電話、自動車がない家庭では近隣だけが頼り、我々には笑顔で接していただきますが、ストレスは限界です。今回の行政、自治体は対応の遅さもさることながら現地調査がされていない事が最も問題な点であります。東電丸投げで、各家庭調査が行われていない。東電が調査するのは電線のみで家屋の調査まで及んでいない。役所は社協に任せきりで人が足りない。被災依頼の対応をこなすだけでパンク状態です。下見もなし、少数のボランティア(専門職)これではいたずらに時間だけが過ぎてしまいます。この状況を見ますと被災現地の情報収集の重要性と俊敏性を痛感いたしました。

我らボランティアのバイク隊は行政の指示待ちではなく、災害後、いち早く被災地に入り情報収集をする体制を作らなければと感じました。考えてみれば災害時でも警察、消防は依頼がなければ動かない事です。今まであまり考えていませんでしたが、特に消防は火災、救急、救助が仕事ですから命令がなければ出動はないんです。いくらバイク隊存在しても我らのように動けないのです。今回の活動で得た教訓を無駄にしないためにも今後、我らの活動もこうした訓練を重視し情報収集活動のマニュアル化と訓練をしていかなくてはならないと感じております。

埼玉 RB 代表 大森 昭昌